

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
17100004	内因性カンナビノイドを介する逆行性シナプス伝達のメカニズムとその生理的意義の解明	狩野 方伸（東京大学・大学院医学系研究科・教授）	A+
<p>研究代表者は、脳内に存在するマリファナ類似物質（内因性カンナビノイド）がシナプス後部から放出されて前部での伝達物質放出を抑える逆行性メッセンジャーであることを世界で最初に発見し、2001年に報告した。</p> <p>本研究では、この内因性カンナビノイドの本体が 2-arachidonoyl-glycerol であることやその放出メカニズム等、内因性カンナビノイドの放出や作用メカニズムの全貌を明らかにしつつある。特に、内因性カンナビノイドのシナプス後部における合成・放出が従来想定されてきた代謝型グルタミン酸受容体を介するものの他に NMDA 型グルタミン酸受容体からのカルシウム上昇によっても制御されているという発見は予想外のものであり、期待以上の成果が出つつあることを示している。</p> <p>また、これらの知見を米国学士院紀要（PNAS）、米国神経科学学会機関誌(Journal of Neuroscience)等神経科学ではトップレベルのジャーナルに多数報告している。</p> <p>このように、本研究は極めて順調に進展していると評価できる。</p>			